

「ビジョンを語る会」主な意見 兵庫教育大学子育て支援ルームのグループ

実施日： 12月3日(木) 人数：9人

(小児科の夜間救急の整備)

北播磨医療センターの診察は深夜0時までだが、子どもは0時を過ぎてから体調を崩すことが多いので、できれば朝まで診察してほしい。実際、消防にどこの病院に行けばよいか問い合わせると、加古川や姫路の病院を紹介される。体調の悪い子どもを1時間以上も車に乗せて管外の医療機関まで行かなければならない現状を非常に問題と感じる。

(子育てに社会の理解が必要)

妊婦や子育て世代を大事にしてくれる職場環境を整えてほしい。出産経験のある人は理解があるが、子どもがいないひとや男性は理解がない。育児休暇制度を整えることも大事だが、子育てを理解し、子どもを持つ親に優しい社会にしてほしい。

(幼児教育制度の充実)

子どもには、将来必ず課題は訪れる。その時に大事なのが困難に向かって課題を解決しようとする力。学校の成績や学歴ではない。それは幼少期にしかつけられない力である。そういう点で、この地域は大切な子どもを預ける幼児教育制度が充実している。

(男性の育児休暇の在り方)

職場の同僚の話を知ると、やはり育児と仕事の両立は大変なようだ。今の男性の育児休暇は、限られた期間家にずっといることになるが、それよりも週に何日か時短勤務ができる方がいい。フルタイム勤務か時短勤務かをはっきり分けて選択するのではなく、フルタイム勤務で働きながら、必要に応じて「時短」で帰れるという形。

(出産に関する支援の充実)

明石から小野に来たが、産婦人科が非常に少ない。もっと増やしてほしい。産後ケアも手薄。市役所以外にも子育て相談にしっかり乗ってくれるような場所が欲しい。出産に関する相談窓口があればもっと前向きに出産を考えることができる。

(支援してほしいこと)

友だちに支援してもらいたいことは何か聞いてきた。①小学校の給食費と教材費に対する支援。②アフタースクールを6時以降も延長すること。休日(日曜)保育。③PTAを簡略化し保護者の負担を軽くすること。④子どもの数を増やすには3人目以降への手厚い補助が大事。補助の制度の周知をもっとした方がいい。

(男性の意識改革)

夫は言えば何でもやってくれるが、やはり育児への認識や心構えが足りない。もう少し男性の育児に対する気持ちを母親並みにできないか。足りていないと思うことが多い。行動が伴っていない。男性を教育する必要がある。

(引越してきて良かった)

育児環境を良くしようと考え、神戸市から加東市に引越してきた。神戸市では、第5希望まで書いても保育園に入れなかった。児童館は学童のためという色が濃く、小学生のいない時間だけの利用で、夏休みや午後の時間帯は使えないなどの制限があった。加東市は児童館が3つありいつでも

開放されているので気軽に行ける。先生とも話ができるし相談できる。引越してきて良かったけれど、勤務が遠くなったことが復職後の心配だ。

(子育て支援体制の地域格差)

三木市出身で、今は仕事と結婚で南あわじ市に住んでいる。里帰り出産でこちらに来ており、かとう GENKi や三木市の児童館を利用している。子育て支援に地域格差があり、南あわじ市には児童館や子どもの遊べる公園が不足している。産婦人科は都市部では選べるほどあるのに、淡路では島に1つしかない。どこに住んでも同じような子育てができるようになれば、3人目も前向きに考えられる。